



# よこはま

2025年 1月24日

第 247 号

日本労働組合総連合会神奈川県連合会  
横 浜 地 域 連 合

連絡事務所 〒231-0031 横浜市中区万代町 2-4-7  
横浜市技能文化会館 402号  
TEL. 045-641-6262 FAX. 045-641-6252

発行責任者 秋山 純一  
編集責任者 高橋 直樹・久保田 政宏

## 2025 新年挨拶

横浜地域連合議長 秋山 純一

皆さん、ご安全に。ご家族  
お揃いで健やかに新年をお迎  
えのこととお慶び申し上げます。  
旧年中の横浜地域連合の  
諸活動に対するご理解とご協  
力に深く感謝申し上げます。

2025年がスタートしま  
したが、昨年を振り返ります  
と、日本経済が回復傾向とな  
った一方で、物価の高騰や円  
安傾向は回復されず、私たち  
の生活に大きな影響を与え続  
けています。このような状況  
ではありますが、私たちは継  
続した賃金改善と労働諸条件  
の改善、産業政策、政策・制  
度の実現に邁進していかなく  
ればならないと思っております。

そのような中、横浜地域連  
合は年間を通して、各地区連  
合や構成組織と連携を深めな  
がら様々な地域連帯活動を展  
開して参りました。

本年はこれまでの貴重な経  
験を活かしながら更なる前進  
に向けた活動とすべく、次の  
3点を掲げ諸活動を進めてい  
きます。

まずは「働くことを軸とす  
る安心社会の実現」です。実  
質賃金を確保すべく人への投  
資、雇用と生活のセーフティ  
ネットの充実強化、地域活性  
化の取り組みなど、すべての  
働く仲間を守りつなぐ活動を  
展開します。

2点目は「必ずそばにいる  
存在になる」です。労働組合  
が自分たちのために連帯する

ただでなく、働く仲間や生活  
者に寄り添い、同じ方向を向  
いて皆で力を合わせ、社会経  
済を新たな方向へと動かす活  
動を展開します。

3点目は「安全と健康はす  
べてに優先する」です。すべて  
の生活や活動において危険な  
状態を作らない、ケガや病気  
に罹らない、この私たちが生  
きていくうえで一番大切で重  
要な安全と健康確保を常に念

頭に置いた活動を展開します。  
横浜地域連合は2025年  
のスタートを切りましたが、  
これまでの歴史に加え新たな  
歴史を刻みながら「働く仲間  
の幸せづくり」と「明るく元  
気な横浜づくり」これを目指  
して決してブレることなく活  
動して参ります。

そのためには横浜地域連合  
はあらためて「愛」「希望」  
「勇気」が人々が好きこの合

言葉を強く胸に  
刻み、この気持ち  
を常に持ち続けながら  
各種活動を積極的に進めてい  
きますので、皆様の益々のご  
支援ご協力をよろしくお願  
いします。

今年には巳年です。へびは脱  
皮を繰り返すことから「再生  
や変化を繰り返しながら柔軟  
に発展していく」年になると  
考えられます。横浜地域連合

も変化を恐れず発展に向けて  
各種活動を展開して参りま  
す。本年も皆様と共に歩み、  
そして組合員とご家族の皆さ  
んが飛躍向上し夫々が発展し  
ていく、そんな良い年となる  
ことを祈念し新年のご挨拶と  
します。

ご安全に！ご健幸に！



議長 秋山 純一

## 令和7年の年頭にあたって

あけましておめでとうございま  
す。皆様が新たな年を迎えられま  
したことを、心よりお喜び申し上  
げます。

令和7年は、市民の皆様が安全・  
安心で心豊かな生活の実現、横浜  
の持続的な成長・発展に向けて、  
取組を一層加速させてまいります。

国内随一の美しい水際線を世界に  
誇る観光資源に磨き上げるとも  
に、公共空間の活用や民間企業と  
の連携などにより、横浜ならではの  
魅力あるまちづくりを進め、賑  
わいを生み出していきます。

気候変動が急速に進む中、横浜  
のかけがえのない環境を将来世代  
に引き継ぐためには、一人ひと  
りが、地球環境や自然・植物と  
共生する意識を持ち、行動し  
ていくことが鍵となります。

2年後には、環境と共生し、  
皆様と共につくる「環共」が  
テーマの国際博覧会  
「GREEN×EXPO 2027」を

中学3年生までの小児医療費無  
償化や出産費用の独自助成に続  
き、子育て世代のゆとりの創出や、  
来年4月からの中学校での全員給  
食開始に向けた準備など、「子育て  
したいまち」に向けた取組を更  
に前進させてまいります。また、医  
療・福祉や地域交通の充実、防犯  
対策、社会経済情勢に対応した支  
援にも取り組み、あらゆる世代の  
市民・事業者の皆様をしっかりと  
お支えしていきます。

昨年元日に発生した能登半島地  
震から1年。いつ起きてもおかし  
くない大規模地震から市民の皆様  
の命と暮らしを守るため、これま

での防災戦略を「市民目線」で抜  
本的に見直し、発災前からの備え  
の強化や本市初の広域防災拠点の  
整備など、地震防災対策を大幅に  
強化し、「災害に強靱なまち」にし  
ていきます。

今年も、市民・事業者の皆様  
の「声」を大切にすることを第一に、  
誰もが「住みたい、住み続けたい」  
と思えるまちの実現に向け、全力  
を尽くしてまいります。

どうろしくお願いたします。



横浜市長 山中 竹春

今年もよろしく  
お願いいたします

議長 秋山 純一

議長 的場 信也

議長 鐘ヶ江 博

議長 高橋 直樹

議長 山口 聖

議長 高橋 雄二

議長 鈴木 光敏

議長 柴田 康光

議長 泉水 義次

議長 鈴木 宏彰

議長 金田 祥吾

議長 久保田 政宏

議長 武本 英悟

議長 竹下 昭彦

議長 御園生 誠

議長 岡田 誠

議長 井上 太

議長 五位 洵

議長 今井 勝彦

議長 大島 重利

議長 大菊 和也

議長 内田 栄

# 「2025年度に向けた 政策・制度要求と提言」 横浜市より回答を受領!

昨年12月18日、横浜市庁舎31階レセプションルームにて「2025年度に向けた政策・制度要求と提言」(8月29日提出)の回答書が、山中市長から秋山議長に手交された。提出した要求と提言は、雇用・教育・防災減災政策など51項目に及び、個々の課題について横浜市からの考え方が示された。

手交後の挨拶の中で、秋山議長は「横浜地域連合には、現在14万人の働く仲間が参加している。私たちの活動が目指すものとして、働く皆さんの労働条件の改善と共に『政策・制度要求と提言』の取り組みによる地域課題の改善を最重点として位置づけている。今年度も、各地区連合や各構成組織から提出された要求を



山中市長から回答を受け取る秋山議長



挨拶をする秋山議長

に『要望書』の提出を行っているのでそれらに対しても、誠意を持ってご対応いただくことをお願いする」と述べた。続いて行われた意見交換では、鐘ヶ江議長代行からインフラ政策の課題に

「『要望書』の提出を行っているのでそれらに対しても、誠意を持ってご対応いただくことをお願いする」と述べた。続いて行われた意見交換では、鐘ヶ江議長代行からインフラ政策の課題に

クの改善については、人口減少社会を迎えていることやコロナによる移動者の減が戻っていないこと、そして運転士不足など様々な状況が重なり本市交通局を含め、昨今の交通事業者を取り巻く環境は、ますます厳しくなっていると承知している。

就任以来、地域交通の確保を持続可能に行っていく必要があると考えており、若手職員を中心とした

51項目に取りまとめ、去る8月29日に山中市長に提出した。それらの各項目に対して、誠意を持ってお答えいただいたことに対して、深く感謝を申し上げます。また、この取り組みにあたっては7月の関係局との勉強会などに際しても、経済局を窓口に行政当局の皆様に変なご尽力をいただき、改めて感謝申し上げます。今後、次年度の予算編成に向けて、本格的な作業に入ると思うが、370万市民を抱える全国最大の政令市として、市民が安心して、安全に暮らせる横浜の街づくりをお願いする。また、各地区連合からも各区長あて

都市交通計画に『誰でも移動しやす、地域交通の実現』を掲げているが、バスの減便が相次いでいる実態を含め地域公共交通ネットワークの改善に向けた今後の方向性について市当局の見解を求めた。

それを受け、山中市長から「地域公共交通ネットワーク



回答式の様子

タスクフォースをつくり、様々な見える化を行ってきた。先般、新たな支援制度を公表したが、交通が不便な地域を埋めていく必要がある。例えば、ワゴン型の車両などを活用した地域交通サービスの運航経費の補助を創設していくことや高齢者の外出を促す敬老バスをそこに使えるようするなどを検討している。民間バス事業者の採用5年目までの運転士を対象に住居費用の一部を補助する制度を新たに

につくり市内におけるバス運転士の待遇の改善を図りたい。また、地域交通法に基づき、地域公共交通計画を策定して、市民の皆様、交通事業者、行政とが交通に関するビジョンを共有して関係者の更なる連携を図り、地域交通の持続可能性を目指したい。

今後も移動しやすい街を目指して精神誠意取り組んでいく」との考えが示された。

## コラム 「るーぶ」

皆さまご苦勞様です。



事務局長 久保田 政宏

先の第34回定期総会にて事務局長に確認いただきました久保田 政宏と申します。

私は以前、東部地区連合・横浜地域連合・連合神奈川にて活動させていただいておりました。

ただ大分その当時から年数がたち久しぶりの連合運動になりますので現状の皆さんの活動に少しでも近づけるよう努力してまいりますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

労働組合の組織率は年々低下しています。我々労働組合の姿勢は今も昔も大きく変化はしていません。ただ組合員の皆さんの求める内容は多様化し、本来の労働組合意義も薄れているように思います。これからも多くの皆さんと積極的に対話、連携を深めていきたいと思っております。

そのような現状の中、コロナ禍を乗り越え、さまざまな活動が制限・変化する世の中ではありますが、連合神奈川はもとより横浜地域連合の活動方針にしたがい「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け秋山議長を先頭に五役の皆さん、地区連合の皆さん、そして加盟組合員の皆さんの生活改善・政策制度要求更には地域連帯などの取組など明るく元氣な横浜づくりに向け様々な活動に真摯に取り組んでまいりますのでご指導・ご協力を重ねたくお願ひ申し上げます。

本年が皆さまにとってより良い年になりますよう祈念し、挨拶とさせていただきます。

「愛」「希望」「勇氣」〜人が好き〜